

当院におけるアイケアチームへの薬剤師の関わり

○團優子1) , 合田泰志1) , 藤原友子2) , 戎谷明日香2) , 川口秀明2) , 永野史子3) , 出水祐介3)

兵庫県立粒子線医療センター薬剤科1) , 兵庫県立粒子線医療センター看護部2) , 兵庫県立粒子線医療センター放射線科3)

【はじめに】頭頸部癌の粒子線治療において、照射範囲に眼部が含まれる場合は、放射性眼障害が生じる可能性が高く、患者のQOLは大きく低下するが、症例毎に個別に対応しているのが現状であった。そこで、放射線眼障害対策の標準化と評価によるケア内容の充実を目的として、院内アイケアチームを平成26年11月に立ち上げた。アイケアチームにおける薬剤師の関わりや活動について報告する。

【方法】チームで放射線眼障害における各症状に対して使用する薬剤、ケア内容の標準化を検討した。また、標準化した放射線眼障害対策を医療スタッフに配信するとともに院内研修会を開催し、周知した。

【結果】標準化を検討する際は、粒子線治療患者の診察経験のある眼科医のアドバイスを受け、眼科医推奨薬と院内採用薬の特徴をチームに情報提供した。チーム内で比較検討した結果、放射線眼障害を臨床所見と自覚症状別に分類し、項目毎に段階的に使用する薬剤およびケア内容をまとめた一覧表を作成した。その際、薬剤の適正使用に関する医療スタッフ向けの資料も作成し、問い合わせの多い点眼薬・眼軟膏の開封後の使用期限やコンタクトレンズ装着時の注意事項を盛り込んだ。また、標準化した対策の認知度向上のため、アイケアチームの医師、看護師、薬剤師が講師となり、院内研修会を開催した。薬剤師は点眼薬・眼軟膏の特徴、製剤の取り扱い、適切な使用方法等について講義を担当した。

【考察】アイケアチームの一員として、薬剤に関する情報提供、資料作成、医療スタッフへの研修会等チーム活動に積極的に関わることができた。今後も患者向け情報の充実や適切な薬剤使用のための患者指導等でチームの活動に関わり、患者のQOL改善に寄与していきたい。